

農 林 水 産 大 臣 賞

1. 地区概要

参加地区名：福島県 いいたて中部地区
表彰団体名：いいたて農地・水・環境保全向上対策推進連絡協議会
事業名等：中山間地域総合整備事業
工 期：平成10年度～平成18年度
主要工事：農道、農村公園、活性化施設、農地防災、集落防災

2. 当該団体の概要

- (1) 組織名 いいたて農地・水・環境保全向上対策推進連絡協議会
- (2) 設立年度 平成19年度
- (3) 設立経緯
 - ・H18.2：農地・水・環境保全向上対策について、県・村による地区説明会
 - ・H19.2：各組織毎に協定期間・活動項目・役割分担・資金計画等活動計画の作成及び総会
 - ・H19.4：村と活動組織との協定書締結
 - ・H19.4：各活動組織及びいいたて農地・水・環境保全向上対策推進連絡協議会活動開始
- (4) 主な活動
 - ①組織代表者会議：年1～2回開催し、活動についての意見交換会等
 - ②全組織勉強会：組織の代表、事務担当、会計等による活動に対する勉強会
 - ③現地活動確認：活動の実施状況の確認
 - ④生き物調査研修会：講師を迎えての全組織代表者による研修
 - ⑤学校教育等との連携：全組織を対象に、子供育成会を中心とした生物保全等の調査、勉強会

3. 活動の概要

飯館村では、「大いなる田舎 まदैライフ・いいたて」をキャッチフレーズにスローライフ（手間ひまを惜しまず、時間をかけて心をこめて暮らす）視点で村独自の施策のもとむらづくりを進めてきた。それに伴い集落営農については、全村を対象に、各行政区毎の「地域ぐるみ」の集落営農を展開し、現在までに13集落の営農組織が設置され、農地の持つ多面的機能が効率的に発揮され、自然の育む環境を維持している。また、農地や農業用水などの土地改良施設等の資源を守る農地・水・環境保全向上対策については村内全域の20活動組織で構成する「いいたて農地・水・環境保全向上対策推進連絡協議会」を設立し、全活動組織で積極的に景観形成活動及び生態系保全活動を展開し、生き物図鑑の作成に取り組む準備を進めて子どもたちの学校教育の一環に貢献している。なかでも中山間整備事業で設置した、堆肥センターの堆肥を用いた有機栽培が進み、消費者から好評を博し、現在は村内を上げて有機循環型農業の展開を進めている。この活動が農地・水・環境保全向上対策推進連絡協議会を介し、活性化施設等を利用して、「日本再発見塾in飯館」を開催するなど今後の都市交流に推進が期待が寄せられている。また、「まदैライフは地球を冷やす」をキャッチフレーズにエコ箸を中心に環境問題への意識の高揚を図っている。こうした取組は過疎・高齢化が進む中山間地域の市町村の活性化の手法として全国の模範となるべきものである。

4. 農業農村整備事業の実施後の取り組み内容と効果

- (1) 事業計画、実施、利用

＜農村生活環境基盤整備・農業基盤整備：集落道整備・農業用排水・農道整備＞

村の施設等と集落間の連絡道の整備及び用排水路等の整備を行った。その結果、地域住民の生活環境が一段と向上し、農作物等の運搬が容易になった。現在は集落全体で造成した農地と農業用水路等を常に点

検するとともに、道路沿いの草刈り・花植え等の環境保全活動を行っている。

また、有機循環型農業は全ての集落で取り組んでいて、特に13地区集落は特産米に取り組み「特産物の栽培、開発、加工販売」を積極的に行った。

<交流基盤整備：都市農村交流施設>

農村風景を生かした都市住民との交流の拠点とした施設整備を行った。こうした施設を利用して、都市と農村の交流が進み、都市部からの移住もあり今後増々の交流が期待されている。また、交流がきっかけとなり地域住民の主体的な取組みが誘発され、イベントや特産品の開発に取り組んだ。

<集落環境管理整備施設：特認・中山間地域総合整備事業「たい肥製造施設」>

本村は福島県を代表する飯舘牛を生産しているが、牛糞のたい肥については個々の農家で対応していたため、肥施用に係る「労働不足や加重労働とたい肥の品質に係る問題」が生じていた。

このため、耕畜連携による土づくりのための施設整備を行った。その結果、農地の地力維持向上や通気性の改善を図ることができ、さらに科学肥料の減量化が図られ、村の約5割の農地で有機循環型農業に取り組んだ。

(2) 地域資源の保全に対する取り組み

<農地・水・環境保全向上対策>

村全域の取り組みは全国でも例がなく、農地・水・環境保全向上対策は、優良農地と水と環境を保全するため、共同活動はすべての地域20行政区が取り組んだ。面積は1,612.8haで、営農活動は13保全会(行政区)286haに取り組んだ。このような中、消費者が、食の安全・安心をもとめて、都市との交流が加速され、良好な農村環境の形成や環境を重視した農業生産への取り組みへの評価が高まっている。

項目	事業実施前	現在
①イベントなどの開催回数及び参加人数	2回	3回
②総合学習などの実施回数及び参加人数	1回	2回で300名
③婦人会など地域組織の活動回数	2回	4回
④他地域からの視察状況	—	2回
⑤特別栽培米の取組	50ha	318ha
⑦草刈り、泥上げ等の共同活動	延べ人数2,000名	延べ人数5,700名

<伝統芸能>

地元郷土芸能として、「三匹獅子舞」、「子ども手踊り」、「田植え踊り」、「神楽」、「創作太鼓」等地域に根ざした伝統芸能を継承していくため、活性化施設を利用して次世代の子供たちを対象としたイベントの開催等を実施している。

(3) 地域住民の活性化等の取り組み

自然環境を利用した自然農法による四季折々の野菜を、ハウス園芸「ブロッコリー、レタス、ほうれんそう、いんげん、花卉」等、複合経営において付加価値を付けた商品開発をして販売することにより宣伝効果及と活性化が図られ、安定した農業生産と所得向上を図っている。

(4) 教育機関との連携

地域の文化を次の世代に引き継ぐとともに、自らの地域を自信を持って売り込んでいくベースを構築し、歴史や文化社会を学習の機会としていく。「孫と祖父母の地域を根ざした伝統食を親から子へ、そして未来へつなぐ」体験学習に取り組んだ。

<米粉パン学校給食に導入>

日本人の主食である米を、村内の農家が作った身近な食材が給食に並ぶことで、子どもたちに食の大切さと農業への大切さを教えて、今後の農業のありかたを考える。

米粉パン独特の「もちもち」感があり大好評である。

(5) 他地域や全国への情報発信の取り組み。

福島県百名山の恵み「虎捕山」のふもとから湧き出す水で「どぶろく」が製造されている。手作りにこだわり手間ひまを惜しまずじっくり熟成させた幻の一品と、「草餅を凍らせて作る凍みもち等」も絶品である。

(6) その他

地球温暖化防止の一環として間伐材を利用したマイはしづくりに取り組み、村内の飲食店組合に協力をいただき、「箸」、「はし袋」、それに「メニュー立て」をセットで役立てていただくように配った。

5. 取り組みに対しての苦勞、工夫及び地域の課題克服

(1) 苦勞した点

- ①活動の内容等について、構成員の理解がなかなか得られなかった。
- ②非農業者の活動への参加が思わしくなかった。
- ③休日の活動が多く、若い方の参加が少ないこと。

(2) 工夫した点

- ①地区内の団体長を役員として登用したことによる活動への参加が図られた。
- ②地区内団体の連携を図った。
- ③1行政区を1組織とした、組織の代表を区長に依頼した事により地区内のまとまりが出来た。

(3) 地域の課題の克服

- ①農業者のみが行っていた活動（水路の草刈り、泥上げ）に共同活動として非農業者の参加。
- ②遊休農地発生拡大の阻止。

6. 本取り組みと農業

環境や食の安全安心に対する関心が高まる中、農業生産、効率性のみを追求だけでなく、地域の食文化や安全、環境に配慮したものづくりの視点において、本村の特性を生かした有機循環型農法の取り組み、消費者へのPRで安心安全の農産物の生産と流通の拡大、エコ栽培にて環境への負荷軽減を図る。

7. 今後の展望

までいライフを基本理念に支えあう優しい心、たくましい創造力、好奇心旺盛なチャレンジ精神に富むような村づくりのため、自然環境を守るとともに、優良農地や環境の整備を整え農村基盤の維持保全を行い、農業を生産（1次産業）から加工（2次産業）、流通販売（3次産業）まで、6次産業の取り組みを進め従来の作るだけの農業から脱却して、付加価値の高い農業基盤の強化に取り組む。



堆肥センター



有機栽培による野菜作り



村道の法面による カバープランツ



特別栽培米の研修様子



米粉パン学校給食に導入



構造改革特区法で村で初めて認定された地酒